

2025 年 11 月 18 日

専門職大学について

専門職大学コンソーシアム
会長 北畑 隆生

1. 専門職大学の特色

専門職大学は、平成 28 年の中央教育審議会答申に基づき創設された新しい大学制度で、現在 24 校(専門職短期大学や専門職学科を有する大学を含む)の大学があります。

その特色は、①成長分野での人材育成、②実践的教育研究、③就職に強い大学の3点です。

1) 成長分野での人材育成

情報通信、観光、健康ヘルスケアなどの成長分野は、高度人材が大量に不足しており、既存の大学による人材育成だけでは十分とはいえません。また、専門職大学は、スタートアップ、ファッション、クールジャパン、コンテンツといった新たな成長分野にも積極的に学部・学科を設置し、実践的な人材育成に取り組んでいます。

- ① 産業界は、これら成長分野で優秀な人材を求めています。
- ② 成長分野は学生の側から見れば、大学でしっかり学べば就職に有利で、実力に見合った処遇が得られ、産業や企業が大きくなるのに合わせてより高い地位で活躍する機会が広がり、創業者、経営者として活躍するチャンスもあります。

2) 実践的教育研究

専門職大学の特長は、教育研究の手法が実践的教育であることです。具体的には、①少人数クラス、②実務家教員、③長期の企業内実習が制度化されています。

① 少人数クラス

授業は原則 40 人以下の少人数クラスであり、学生数に比較して教員の数が多く、親身に指導する体制になっています。大教室での一方的な講義ではなく、質疑応答があり、演習・実習と密接に連携し、学生一人ひとりに伴走する双方向型の授業が中心であり、学修効果の向上につながっています。

② 実務家教員

専門職大学は、教員の 40%以上が企業などで勤務経験のある実務家教員です。学生にとっては、産業界の最新の動向を踏まえた産業の実態や課題を知り、現場での体験を踏まえたリアルな授業を受けることで、明確な職業意識を持って勉学に取り組むきっかけとなります。

③ 長期の企業内実習

最大の特長は、4年間で600時間以上の企業内実習(臨地実務実習)が教育課程の必修科目として設定されていることです。既存の大学でもインターンシップを導入する大学はありますが、その大半は2週間未満で、専門職大学の臨地実務実習とは量的にも質的にも圧倒的な差があります。

学生は、大学で学んだことが企業など現場で通用するかどうかを確認し、学びが足りなかったことに気づけば真剣に学び直し、通用することがわかれば、大きな自信と実践的なスキルを身につけることになります。このような「往還型学習」を繰り返すことで学生の学修成果の向上が見込まれます。

また、従業員と同じ現場で同じ仕事をするすることで、職業とは何かを真剣に考え、知識、技術のみならず、仕事に対する責任感、コミュニケーションやチームワークの重要性なども実感することになります。

早い段階でこのような経験をすることで、自分の適性や能力(気づかなかったことも含め)を自覚し、明確な職業選びをすることで、卒業後の不本意な退職(3年3割問題)の防止につながります。

3) 就職に強い大学

一般的に、多くの学生は研究活動そのものよりも、「将来の仕事に役立つ専門的知識・技術を修得したい」という希望があります。※1

専門職大学の強みは、学びと職業の接続が明確であり、学生が即戦力として評価される教育の仕組みを有している点にあります。

具体的には、上記3点の実践的教育の特色のほか、「教育課程連携協議会」を設置して、産業界なども含めた外部有識者の意見を取り入れながら教育内容の充実と改善に取り組んでいること、臨地実務実習を通じて常に企業のニーズを把握していることが就職に強い大学となっている理由と考えます。

制度発足後まだ数年で認知度が低く、卒業生が少数で就職実績も乏しく、企業側の大学に対する評価も定着していない中でも、各専門職大学は既存の大学に匹敵する就職率を達成しています。

また、質的にも企業側から高い評価を受け、卒業生の満足度も高いものとなっています。※2

2. 中央教育審議会質向上・質保証システム部会

部会では、大学教育研究全体の質向上を目指して、大学の教育力や学生の成長度合いを評価する指標作りに取り組んでおられると聞いております。大学の多様性や独自性に配慮しながら公平で適切な指標づくりに取り組んでおられることに敬意を表します。

専門職大学は教育の質保証と質向上を図るために、大学自らが教育目標や学修成果を検証する自己点検・評価を実施し、PDCA サイクルに基づいて課題の把握と組織的な改善を継続的、循環的に進めています。また、第三者機関による機関別認証評価および分野別認証評価を受けることで、教育活動全体の適正性と実践性を客観的に検証し、社会からの信頼と評価を確立しています。新たな認証評価制度は、専門職大学がPDCA サイクルに基づいて教育の質保証と質向上を図る上で極めて重要な役割を果たすものと考えております。

専門職大学は歴史も浅く認知度が低いという現状にありますが、各大学とも制度の趣旨に沿い、産業界や地域社会と連携した実践的な教育を展開し、学生一人ひとりが現場で求められる課題発見力・実践力・コミュニケーション能力を身につける学びを実現しています。

特に、長期の臨地実務実習や実務家教員による指導、プロジェクト型学修などを通じて、学生は理論を実践に結びつけ、自ら考え行動する力を培っています。こうした教育によって、学生は確かな成長を遂げ、産業界や社会の要請に応える専門職人材として着実に成果を上げています。

とりわけ、その「教育力」は評価されるべきものと考えます。新たな指標づくりが専門職大学の特色を踏まえた公平で納得感のあるものとなることをこころより期待いたします。

※1中央教育審議会 答申『個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について(答申)』(平成 28 年 5 月 30 日) P8 1.高等教育における職業教育の現状 → (3) 学生受入れの状況 → ① 高等学校卒業後の学生の状況 脚注より引用

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afldfile/2016/10/24/1371833_1_1_1.pdf

※2 令和6年度実施 開志専門職大学教育改善に向けた企業および卒業生アンケート結果報告書 P3「開志専門職大学 卒業生に対する満足度」調査にて、5段階評価のうち「5」評価の企業が 45.2%、「4」評価の企業が 35.7%となっている。

P7 企業調査自由記載より一部抜粋:「企業内実習で受け入れた学生を含め、熱心に課題に向かう姿勢はすばらしい。企業での即戦力として活躍できるような素養をもった学生が多く、今後も積極的に採用していきたいと思います。」

P10 卒業生調査自由記載より一部抜粋:「企業内実習も教授や大学職員の方々からアドバイスをいただきながら成長できる機会がある。自身から意欲的に学ぶ姿勢は社会人になったら当然のように求められる素質のため、当時の環境はとてもありがたいものだったと実感した。」

https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/education_improvement_survey_2023.pdf